

るるる



今号の表紙 小規模 サボテンの花

PICK UP

- ずっと、この街で - サボテンの花 1 階 -
- 日本の暮らしと、思い出の写真たち

HELLO! NEW STAFF
鯉谷さんのひとりごと

サボテンの花 1階

ずっと、この街で。



平日の昼下がり。テレビを見たり、音楽を聴いたりする「日常の暮らし」が見られました

デイサービスから訪問介護、ショートステイまで対応できるサボテンの花1階。映画『ケアニン』でも注目された形態の現場を見学しました。

施設1階にある「小規模多機能型居宅介護 サボテンの花」。その一日は、ご利用者さんの自宅へお迎えに行くことから始まります。現在はデイサービスの利用がほとんど。週末に3名ほどショートステイを受け入れているそうです。「レクは月に1回。10月は座ったままできる運動会をしました。机に置いた箱をめがけて玉入れをしたんですが、普段あまり腕が上がらない人も、その時はいつもより上がったりして。とても盛り上がりました」(ケアマネージャーの山口さん)。毎月季節を意識したレクを行なう一方、年2回ほど外食レクも。また、元パーティシエの渡内さんがクリスマスに腕をふるったこともあるそうです。「パーティシエの仕事は華やかな見た目とうらはらにハードな世界。介護の仕事も、大変だけど嬉しいこともあったりするのでやりがいを感じています」(渡内さん)。



そして17時半頃になると、ご利用者さんの送迎を始める山口さん。一人暮らしの場合は、その人が家で困ることがないように食事などを準備。ご家族と住んでいる場合は玄関先で相談事などにきめ細やかに対応されていました。「施設への入所を検討して良いレベルの男性でも、一緒に暮らしている奥さまは心の支えにしているケースがある。ご家族のことも考えながら、できる限りの支援をしていきたい」と話してくれました。



ケアマネージャー
山口さん

小規模多機能型居宅介護は「在宅介護の最後の砦」と呼ばれています。慣れ親しんだ街や自宅での生活を大切に、柔軟に、ご本人やご家族にとってより良い形の支援を考えていきたいです。

サボテンの花 1階

小規模多機能型居宅介護

住所：大阪市東住吉区西今川4-22-11-1F／従業員数：7名



夕方～夜、ご利用者は帰途へ

るるる日誌 -日々のできごと-

10/28



食事の前に行なう「口腔体操」。この日は渡内CWがお手本として前に立ち、ご利用者さんも掛け声に合わせて肩や首など顔回りの体操をしました。

10/29



山口ケアマネージャーと田所CWが他法人の小規模多機能ホーム「マルベリー」を見学。活気ある事業所のノウハウ等について管理者の富嶋さんからお話を伺いました。

10/30



おやつの内容は日によってさまざま。この日は冷蔵庫で冷やしておいたプリンにクリームをのせて、コーヒーと一緒に。ゆったりとした午後のスイーツタイムを過ごされました。

日本の暮らしと、思い出の写真たち

フィリピンからハナさん・メイさん・ジョイさん・シャイさんが来て、8カ月ありがとうございました。仕事や学校、がんばる彼女たちの傍ら、いろいろな思い出が生まれてきたはず。写真をまじえて教えてもらいました。

場所：寿幸苑、サボテンの花
聞いた人：ハナさん・メイさん・
ジョイさん・シャイさん

寿幸苑 ハナさん

まずは日本に来て2日目に撮ったというシェアハウス前の一枚。「この法人の職員になれて、本当に嬉しいんです。だって、みんなが家族のように接してくれるから。日本語があまり得意じゃないけど、いっしょに働くチャンスをもらえたことにとても感謝しています」。



続く2枚目は、日本語学校前の一枚。勉強をとても頑張っている様子で、最近も「12月にテストがあるから」と夜帰ってから勉強に励んでいたようです。

ふだん、何をして過ごすのが好きですか？

メロウミュージック（ゆっくりしたテンポのやわらかな曲）を聴くことです。

職場のみなさんに、ひと言メッセージ！

この法人の職員として迎え入れてもらったこと、そして一緒に働かせてもらっていることにとても感謝しています。いつも優しく、親切に接してくれてありがとうございます！

サボテンの花 ジョイさん

見せてくれたのは、シェアハウスに住むみなさんと京都で撮った一枚。「初めて着物を着た時の写真です。着て、写真を撮ることができて、とても嬉しかった。みんなでいっしょに作った最初の思い出にもなっています」。京都観光はとても楽しかったようで、「むかしから自然の美観が大好きなので、この場所もとても好きになりました」と話してくださいました。



ふだん、何をして過ごすのが好きですか？

映画を見ることが好きです。私の毎日の楽しみになっています。

職場のみなさんに、ひと言メッセージ！

同僚にとても恵まれていると思っています。入職前は「きっとハードな面もあるんだろうな」と思っていましたが、職場のみなさんがサポートしてくれるでのとても助かっています。

寿幸苑 メイさん

「思い出深い一枚」と見せてくれたのは、サザエさんの仮装をした写真。メイさんが働いている寿幸苑4階フロアで敬老祝賀会を行なった際、職員・入居者さんみんなでサザエさんへアに変身したのです。「このタイプのカツラに挑戦したのは初めてでした！」と楽しそうに話してくださいました。



続いては、京都観光に行った時の一枚。つかの間の休日、羽を伸ばして京都を満喫できただようです。

ふだん、何をして過ごすのが好きですか？

ラブソングを聴いたり、いろいろな人のブログを見たり。時間がある時は、どこかへ出かけたりもします。

職場のみなさんに、ひと言メッセージ！

良いケアワーカーになるためにアドバイスしてくれたり、教え方を工夫してくれたりしてありがとうございます。

サボテンの花 シャイさん

最初の一枚は日本語学校の友達と撮った写真。「この子はクラスで初めてできた友達のイエンさんです。休憩時間に『一緒に写真を撮ろう』と誘ってくれて。楽しくて5、6回写真を撮りました」。



続いては、職場の先輩が作ってくれた料理の写真。「本当に、すごく美味しいです。料理上手になりたいから、いつかこの料理を作れるようにがんばります！」と話してくださいました。



ふだん、何をして過ごすのが好きですか？

音楽を聴いたり、趣味で絵を描いたりしています。時々漫画も読みますが、漢字がなかなか読めなくて。これから、がんばるつもりです。

職場のみなさんに、ひと言メッセージ！

いつも親切にしてくれて、ありがとうございます。もっと分かりやすく会話できるように、一生懸命がんばります。

TOPICS

各事業所で、ときには外にとびだして、最近行なわれた さまざまな活動を紹介します。

1 秋のバザーが開催されました

日時：10月13日（日） 場所：ライフェル駒川

街の交流拠点となっている「地域の茶の間」主催のバザーがコミュニティースペース「イマ」で開かれました。地域の方や入居者さんが手作りの服や雑貨、スイーツなどを持ち寄り、訪れたお客様は思い思いに買い物を楽しみました。



2 Re-Io主催でハロウィンイベント！

日時：10月22日（火） 場所：寿幸苑

地域の人との交流活動に励むチームRe-Io (Re-local) は、昨年に続き、ハロウィンイベントを開催。カボチャの帽子を作るワークショップや、苑内をめぐってお菓子を集めるツアー、バンドによる生演奏など盛りだくさんの一日でした。



3 苑全体で秋祭り

日時：10月27日（日） 場所：寿幸苑

娯楽室をメイン会場に、秋祭りを開催。フロア・事務所・Re-Ioは、プリン、キャベツ焼き、おでん、ベビーカステラ、たこ煎、たこ焼き、釣りゲームと、多彩な屋台を出店。入居者さんは手作りのグルメやゲームを楽しみました。



4 レクでたこ焼きパーティー

日時：11月18日（月） 場所：サボテンの花

月に一度レクをしている小規模多機能型居宅介護サボテンの花。11月は「たこ焼きレク」を行ないました。たこ焼き初体験の実習生も、ご利用者さんと一緒に焼くのにトライ!みんなで作って焼いて、おいしく頂きました。



Hello! NEW STAFF



豊浦 健太郎さん
(サボテンの花)



樋上 杏奈さん
(寿幸苑)

出身

京都府

茨城県石岡市

好きな食べ物

ポテトサラダ

お寿司

好きなこと・特技

テレビを観ること

ゲーム

SNSも更新中！

浪速松楓会のいろいろな情報を、ゆるーく発信中!社内報では伝えきれない日常の様子や取り組みを紹介しています。気軽にのぞいて、気が向いたらイイネしてください♪

Facebook・LINEからも
社内報を
読むことができます。



フィリピン訪問

この2ヵ月間で2回フィリピンに行った。どちらも採用活動が目的。ルソン島のTuguegaraoという小さな街の学校に訪問した時は、およそ500名の生徒に加え、学校の理事長・市長・州知事なども出席され本当に豪華な歓待を受けた。ミンダナオ島のTagumという街で面接をしていた時に出会った女性は、1歳と3歳の子どもをフィリピンに置いてでも日本に行きたいということを涙ながらに訴えていた。あまりにもすごい熱量だ。詳しく聞いてみると、フィリピンでは、まだまだきちんと職に就けない若者も多く、たとえ働いても

1日の稼ぎは600円程度だという。日本に行きたい理由を聞いた時にみんなが答える「It's my dream」という言葉の裏側には、「希望」の中に「覚悟」と「苦悩」が入り混じつたものを感じた。「働きたい」の裏側には、一人ひとり違う「想い」や「目的」がある。これは、日本人の私たちも同じだと思う。職場は僕も含めて、誰にとっても「目的」ではなく「通過点」だ。僕は浪速松楓会を、今なにかの縁でたまたま一緒に過ごせている職員一人ひとりの想いや夢を大切にできる職場にしたいと、今回の2回の訪問で改めて感じた。

No.003